

コミュニケーションプログラムを通じた住環境デザインの方法論に関する研究

代表 佐藤 宏亮（早稲田大学理工学術院 助教）

〔研究報告要旨〕

豊かな住環境を育むためにはコミュニティに内在化された価値の共有が不可欠であり、人と人との社会的なネットワークがこのような価値の共有を下支えする。本研究ではこのような視点に立ち、以下の3点に着目しながら、生活の場から積み上げる住環境デザインの方法論の構築を目的とした。

- 1) 住環境の価値を多主体が共有していくコミュニケーションツールの開発
- 2) 社会関係資本の再生と住環境デザインを創発的に行うプログラムの企画・運営
- 3) 地域を媒介するプランナーの役割の明確化

研究対象地として徳島県美波町木岐地区を選定した。木岐地区では漁業従事者と農業従事者が微妙な距離感を持って共存してきた。ここに新たなまちづくり組織が加わり、ますます複雑な地域社会が構成されつつある。本研究では組織間の相互理解を深めていく中で、コミュニティに内在化された価値を共有し、地域の社会関係資本の再生を図るとともに、第三者としてのプランナーの役割について考察した。さらに、地域の社会関係資本を、地域を超えたネットワークへと展開してゆくために、地域組織の連絡調整組織である「まちづくり協議会」が事業主体となって企画・運営していく交流事業の社会実験を行なった。この交流事業では、大学生や社会人を対象としたプログラムを開発し、地域外から継続的に支援してくれるまちづくりの担い手の育成を目指した。

本研究を通して、第三者としてのプランナーがコミュニティ間の架け橋となることで、主体間での対話が促進され、相互理解が深まるとともに、その結果として住環境デザインの取り組みへと繋げて行くことができた。対話を通して創出された空間には、地域の様々な人の想いが表現されており、地域共有の場として新しい風景を生み出すことができる。また、組織間の相互理解を深めることによって、地域の連絡調整組織が主体となった交流事業の実施が可能になり、地域を超えた社会関係資本の構築へと展開した。